

令和6年10月30日

令和6年度病害虫発生予察注意報（第7号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：ハスモンヨトウ
2. 対象作物：野菜類、花き類
3. 対象地域：県内全域
4. 発生量：多
5. 加害時期：4～11月
6. 注意報発表の根拠
 - 1) フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、それぞれ和歌山市7,432頭（平年1,504頭）、紀の川市1,883頭（平年994頭）、御坊市7,664頭（平年2,508頭）であった（図1）。
 - 2) 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は73%（平年17%）、生息株率は17.3%（平年1.8%）であった（表1）。
 - 3) 県中部のエンドウ類における10月下旬の発生ほ場率は60%（平年14%）、生息株率は8.7%（平年2.5%）であった（表2）。
 - 4) 大阪管区気象台の発表によると、近畿地方の向こう1か月（10月26日～11月25日）の平均気温は高い確率が80%である。このことから例年に比べて被害が長期化するおそれがある。
7. 防除上の注意事項
 - 1) 卵は鱗毛で覆われた卵塊（写真1）で産み付けられ、ふ化直後の若齢幼虫は集団で加害する（写真2）。ほ場を見回り、卵塊や分散前の幼虫は見つけ次第捕殺する。
 - 2) 施設栽培では成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットの被覆や防蛾灯（黄色・緑色灯）の夜間点灯を行う。
 - 3) 幼虫が中～老齢期になると薬剤の防除効果が低下するので、若齢期（ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき）の防除を心がける。
 - 4) 防除薬剤については、最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>）を参照し、適正に使用する。



写真1 ハスモンヨトウ卵塊



写真2 ハスモンヨトウ若齢幼虫

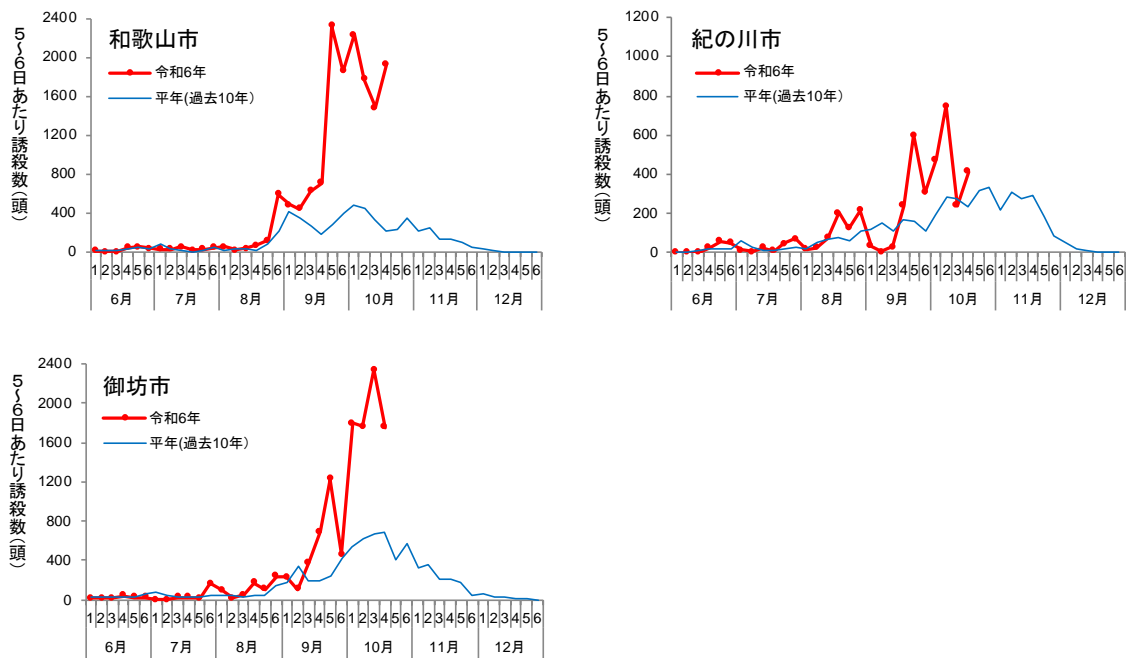


図1 フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺数の推移

※図の横軸の数字は半旬(1:1～5日、2:6～10日、3:11～15日、4:16～20日、5:21～25日、6:26～30または31日)を示す。

表1 キャベツにおけるハスモンヨトウ発生状況(県北部、調査時期:10月)

	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年	平年	令和6年 (本年)
発生ほ場率(%)	0	10	10	0	14	13	25	29	50	18	17	73
生息株率(%)	0	0.5	0.5	0	2.1	1.3	3.8	2.9	6.3	0.9	1.8	17.3

表2 エンドウ類におけるハスモンヨトウ発生状況(県中部、調査時期:10月)

	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年	平年	令和6年 (本年)
発生ほ場率(%)	0	5	36	27	32	0	27	18	0	0	14	60
生息株率(%)	0	1.5	5.7	8.6	4.7	0	2.7	1.8	0	0	2.5	8.7

和歌山県農作物病害虫防除所
電話：0736(64)2300